

第 38 回電気通信普及財団賞 表彰者コメント ～テレコム人文学・社会科学学生賞～

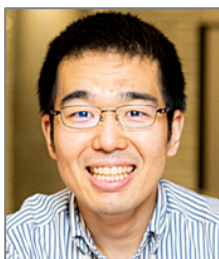
<順不同>

※括弧内の所属は当論文賞受賞時のものです。

佐藤 信吾 氏（慶應義塾大学大学院社会学研究科社会学専攻 博士課程 3 年）

テレコム人文学・社会科学学生賞 奨励賞

「対話的構築主義によるジャーナリズムの戦争証言インタビューの再検討
～NHK 戦争証言アーカイブスを事例として～」



この度は、「第 38 回電気通信普及財団賞テレコム人文学・社会科学学生賞 奨励賞」という栄誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。本研究は、インタビューに快く応じてくださった元 NHK「戦争証言プロジェクト」編集責任者の宮本聖二様のご助力なしには、完成することはありませんでした。宮本様をはじめ、ご指導・ご助力を賜ったすべての皆様に、この場をお借りして深謝申し上げます。

私はこれまで、ジャーナリズム論と記憶の社会学を架橋しながら、日本社会におけるアジア・太平洋戦争の記憶の構築過程を考察してきました。この問題関心に基づき、本論文ではジャーナリストと体験者という主体同士の相互作用によって構築されるものとして戦争証言を捉える視点から、NHK 戦争証言アーカイブ스에収録された二つの証言を具体的に分析しました。デジタル・アーカイブの質的な分析によって、ニュース・テキストには現れなかった体験者の個人的語りの多様性を明らかにすることができ、オルタナティブな戦争の記憶を立ち上げることが可能になります。本賞を励みに、さらに研究を深化させていきたいと思ひます。

末筆ながら、貴団体の更なるご発展とご繁栄をお祈り申し上げます。

温 若寒 氏（大阪大学大学院人間科学研究科社会心理学研究室

博士後期課程 1 年）

テレコム人文学・社会科学学生賞 奨励賞

「オンライン脱抑制: 構成概念の再考と新たなモデルの提案」

この度は、「第 38 回電気通信普及財団賞テレコム人文学・社会科学学生賞 奨励賞」をいただき、ありがとうございました。

昨今、社会のデジタル化の加速に伴い、私たちが他者とコミュニケーションするための重要なツールとして、インターネットはその存在感をますます高めています。しかしながら、現実生活で礼儀正しく控えめな人でも、オンライン環境に入ると一変し、自己制御が一瞬で崩れてしまうことがよくあります。こうした現象を、匿名性や不可視性などのオンライン環境の特徴によって行動の制御力が弱まることによるものだと説明した Suler (2004)のオンライン脱抑制理論は、インターネット上での人間の心理と行動に関する有力な一理論である一方、概念定義が明確ではないという「緩さ」を持っています。そこで本研究では、何がどのように不明瞭なのかを整理した上で、この理論の方向性を論じました。

このような理論的な回顧と展望により、オンライン環境に関する社会心理学的知見に有機的な一貫性が生まれ、さらにはそのことが快適なインターネット環境を整備するための提言につながることを期待します。